

祝 創立75周年  
令和7年度6月号



# 咲かせよう大正の花

# つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://www.taito.ed.jp/1380011>



## 気持ちのこもった挨拶

園長 北村 恵

5月の初めに親子で植えた野菜の苗が、ずいぶんしっかりしてきて葉が大きくなり、ナスやトマトには小さな花も付き始めましたね。毎日、親子で丁寧に水やりをして、観察したり苗に優しく声をかけたりしている成果だと思います。

5月から「あいさつ週間」が始まり、当番になった5歳児の親子が登園時、「おはようございます」と挨拶をしてくれました。どのグループもしっかりと声が出ていて、お辞儀もできて気持ちの良い朝の始まりでした。

今では立派な挨拶ができるようになった年長児ですが、最初からできていたわけではありません。3歳児の時には小さな声だったり、目が合わなかったり、声をかけられることも嫌がったりして、「おはよう」という言葉がなかなか言えない子供がたくさんいました。

実は、コロナ感染症が落ち着いた頃から気になっていることがあります。それは、挨拶することやされることを嫌がる子供たちが増えてきたことです。その原因は何だろうかと考えてみました。もしかすると、コロナ禍で外出を控えていた時期が、ちょうど言葉を覚えたり、大人の真似をして人と関わったりしていく時期に重なり、挨拶を交わす経験が積み重ねられなかったのかもしれない。

以前だったら、日常的に誰かに会い、子供たちの目や耳に入る場所で交わされていた挨拶の言葉が、あまり聞いたことのない言葉になってしまったのかもしれない、と思うとちょっと怖くなります。子供たちは大人の振る舞いを見て、真似をしながら様々なことを覚えていきます。モデルはいつもそばにいるお父さんやお母さんです。ぜひ、ご家庭の中でも朝起きたら「おはよう」寝る時は「おやすみなさい」などの言葉をたくさんかけてあげてください。挨拶はコミュニケーション力を育てる初めの一歩です。

入園当初は門で挨拶をしても返事ができなかったり、嫌がったりしていたうさぎ組の子供たちも、最近は少しずつ目を合わせたり、にっこりしたり、タッチをしたり、「おはよう」と言えるようになってきたりしてきました。毎日繰り返されることで、自然に受け止められる言葉になってきたことを感じます。

5歳児になると、誕生会や様々な場面でお辞儀をしたり挨拶をしたりする機会が増えます。そんな時にはいつも、「どんな気持ちでお辞儀をしたらいいか」という話を子供たちにしています。「聞いてください」だったり「聞いてくれてありがとうございます」だったり、気持ちを込めてお辞儀が出来るように伝えます。みんなが、朝の挨拶は「今日も会えて嬉しい！」の気持ちで、帰りのさようならは「明日また遊ぼうね！」の気持ちで言えるようになったら素敵ですね。